

2010年レフリング指針

「レフリー普及・育成を最重点課題に」

日本協会審判委員会委員長 岸川 剛之

日頃、レフリー活動戴いているレフリーコーチ他3地域・都道府県協会レフリー委員会の皆様方に深く御礼を申し上げます。

2019年ラグビーワールドカップ日本開催の決定、また、2016年オリンピック競技の中に7人制ラグビーが加わることになり、日本協会から発表された2010～19年の戦略計画、新理念、新ビジョン及びミッションに沿って、中期・長期視野に立ったレフリー育成が必要になってきました。

審判委員会としては、レフリー普及・育成を最重点課題として、底辺拡大から国際レフリー育成の達成目標を明確にして、具体的施策を計画すると共に実行のために組織力を整備・強化して、活動を推進して参ります。

3地域協会、各都道府県協会におかれましては、レフリーの発掘、育成に更なるご支援を賜るようお願い申し上げます。

なお、今シーズンの活動方針及び2010年レフリング指針については、7月3日の全国レフリー委員長会議にて説明を致しましたが、以下の各指針項目を再度ご確認戴き、レフリー活動へ展開して戴きたいと思っております。

1. 活動方針：活動スローガン “Growth”

“成長：Growth”中・長期の視野に立った目標達成のために更なるチャレンジをもって進化し続ける。

レフリーの認識度を高めるために、日本協会公認レフリーは、協会関係者、チーム関係者からの信頼を得ると共に、全国レフリーの模範となるハイパフォーマンスのレフリングを展開する。また、審判委員会は、組織を活性化させ、レフリーの指導・育成の最大限のサポートをするように、委員会スタッフが一体となって運営を行なうこととする。

そして、関東、関西及び九州の3地域及び全国都道府県との連携を強化して、レフリーの発掘、育成を積極的に推進して、優秀なレフリーを継続して輩出する育成システム及びプログラムを構築していく。

具体的な活動方針を以下に示す。

I. 底辺拡大

①レフリーの認識度を高める。

「試合は、レフリーが居ないと始まらない」、「質の高いレフリングは、良いプレーを創造させる」等のレフリーの存在や役割の重要性を自覚して、プレーヤー、指導者及び観客から尊敬されるレフリーを育成する。

また、レフリーの認識度を高め、レフリーを希望する人が一人でも多く増えるように積極的なPR活動を推進して行く。

②レフリーの普及・育成

IRBトレーニングプログラムに基づき、レベルにあったトレーニングを行い、レフリーの早期育成を推進する。特に、アカデミーや3地域若手有望レフリーには、地域交流や全国大会研修会等でレベル向上の機会を積極的に提供する。

3地域及び都道府県協会は、レフリー発掘のための認定講習会（C級、B級）を充実させ、レフリーの育成を推進し、日本協会、3地域及び都道府県が連携して活動を進めていく。

なお、本年度から審判委員会内に女子レフリー部会を正式に加えて体制を構築すると共に、本格的に女子レフリーの普及・育成を推進する。

③レフリーコーチの育成

レフリーの普及・育成のためには、レフリーコーチのサポートは必須

であり、レフリーレベルに合わせたレフリーコーチの指導・育成を強化する。特に、3地域、都道府県の経験の浅いレフリーの指導・育成は、重要であり、レフリーコーチの体制を構築してその活動を拡大展開して戴きたい。

審判委員会は、3地域及び全国都道府県単位のレフリーコーチ研修会を積極的にサポートしていく。

④情報の伝達

テクニカル部会の活動をスピードアップさせて、マニュアル・研修会教材の整備を図り、3地域及び全国都道府県協会に研修会資料の情報を提供する。

また、映像データをレフリー及びレフリーコーチに提供すると共に、ルール部会を新設し、競技規則やルールングに関する情報伝達を早めていく。

II. 2010年の重要項目

①“Keep Clean Rugby”のためのレフリングの実践

まず、安全性を重要視したレフリングの実践 Rugby Readyを踏襲して、安全なレフリングに努める。特に高校生以下のスクラムの組み立て方に十分注意するとともに、重症事故につながるような姿勢でのプレーについては、競技主催者や指導者と一体となって厳しく対応していく。これは、ラグビー競技を発展させるためには安全性の確保は絶対条件であり、今後も安全性を最優先したレフリングに努めていく。

また、ラグビーの質の低下となる不正なプレーや危険なプレーについては、毅然とした態度で対応する。

②尊敬されるレフリーの育成

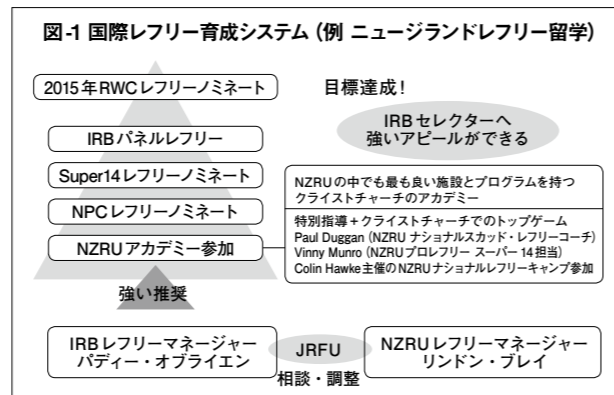
ラグビー競技におけるレフリーの資質は、ゲームにおけるジャッジだけでなく、コミュニケーションスキルや日常における態度、言動など多方面にわたっていることである。トップレフリーとして、レフリングスキルと共にレフリーの資質の向上を様々な研修を通して研鑽していく。

③国際レフリー育成プログラム

IRBパネルレフリー育成のために、レフリー個人の能力・適正を精査して、個別のチャレンジプログラムを作成して推進する。そのために、国際部会を強化し、海外派遣・研修のプログラム作成、アジア・北半球・南半球へのレフリー交流システムを構築していく。

本年度は、NZ協会のレフリー育成プログラムへのレフリー派遣を行うと共に、IRB,ARFU指名試合に積極的にレフリーを派遣して、国際レフリーの輩出のステップアップを図る。(図-1参照)

また、昨年と同様に香港協会とのレフリー交流を継続して実施する。



④日本協会レフリー公認基準の明確化

日本協会公認レフリーは、トップリーグを含めて、日本協会主催試合のレフリーを担当することが任務であり、ハイパフォーマンスのレフリングを行うためにフィットネス基準を設定し、相当数の試合を担当できることが条件となる。レフリーパフォーマンスをシーズン通して適切に評価していくこととする。

また、3地域から新規に日本協会公認に推薦されるレフリーについても、公認選考基準(例：フィットネス基準：マルチフィットネステストレベル110以上、担当試合基準：TOP下部リーグ+主要大学試合を年間20試合程度等)を作成し、シーズン公式戦、春季プレシーズンマッチ及び夏季3地域トップレフリー研修会にて評価していく。

「2010年レフリング指針」を下記の通りとしました。レフリー関係者はもちろんのこと、チーム関係者にも是非読みたい、レフリーを含むマッチオフシャルとチーム関係者が協力し合いながら、魅力あるラグビーが展開されることをお願いします。

2.2010年レフリング指針

1. 基本方針

安全性、公正及び一貫性を持ったレフリングで、ダイナミックかつ継続性のあるラグビーを創出し、チーム、プレーヤー及び観客に最高の感動を与える。

2. 具体的目標

- (1) 安全性を最優先したレフリング(カテゴリーに応じて)
- (2) 不正なプレーに対して厳格かつ一貫性のあるレフリング
- (3) クリアなブレイクダウンの判定とコントロール
- (4) 継続性の重視
- (5) アシスタントレフリーとの関係によるチームオプスリーの機能発揮

3. 具体的レフリングスキル

- (1) セットプレー
 - ①レフリーコールによるスクラムコントロールの強化
 - レフリーのコールに合わせた4段階スクラムシーケンスを徹底して、安全で公平なエンゲージメントをコントロールする。レフリーは、OTPE(ク라우チ、タッチ、ポーズ、エンゲージ)の動作を確認してコールする。
 - スクラムフォーム(バインド、アングル等)を終了までしっかりとコントロールする。
 - スクラム周辺のアフサイド、オブストラクション等の確認をチームオプスリーで実践する。
 - 正しいボールの投入により、イコールコンディションでのボールコンテストを実施する。
- (2) ラインアウトの整理及びギャップ確認
 - ラインアウトに参加する人数を整理し、1mギャップ等正しいラインアウトのフォームを良く確認する。
 - レシーバーの位置及びボール投入の反対側ポジションニング等を良く確認する。
 - 速やかなボール投入をマネジメントする。
 - ラインアウトからモールに移行する前のコンテストを確認して、オブストラクションプレーへの見極めを的確に行う。
 - ジャンパー及びサポートプレーヤーへのチャージ等危険なプレーを良く確認する。

・ラインアウト解消前の離脱(15mラインを超えたプレー等)を的確に確認する。

(2) ブレイクダウン

- ① タックルの成立及び立っているプレーヤーかどうかの見極めを的確に行う。
- ② 15条6項(C)に該当するタックルに関わった立ったままでボールキャリア及びボールを掴んでいるプレーヤー(アシストタックラー)が、ボールもしくはボールキャリアを放すことを的確に確認する。
- ③ 継続を妨げるプレー(シーリングオフやノットロールアウェイ)の適切な判定及びコントロールを行う。
- ④ タックル後の最初のボール獲得及びラック形成後のボール争奪の継続の見極めを的確に行う。
- ⑤ 効果的なプリベントコールにより、プレーヤーとのコミュニケーションを的確に行う。

(3) 不正なプレー

- ① ファウルプレー(ゴール前のインテンショナル含む)に対しては毅然として対応する。
- ② タックル部位を確認し、一貫した基準で適用する。
- ③ 安全性を最優先したゲームコントロールを行う。
- ④ アシスタントレフリーによるレフリーサポート強化(レフリー、AR間の基準統一と関係強化)

(4) その他(競技規則の正しい適用)

- ① モールの成立と解消、モール離脱のアフサイドの確認を確実に行う。
 - ② キックのクイックスロー成立と投入位置の確認を確実に行う。
 - ③ モール成立後の引き倒す行為(反則)を的確に確認する(アシスタントレフリーとの関係強化)
 - ④ タックル成立後の立ったままのプレーヤーのタックルへの参加
 - ⑤ キックのアフサイドの確認(10m オフサイドと前方で攻撃スペースを消すプレーヤの動き)
- (5) ゲーム全体を通じて
- ① 試合を通して一貫したレフリングを実践する。
 - ② 必要最小限のコミュニケーションスキルによりダイナミックで継続性のあるゲームを創出する。
 - ③ チームオプスリーの機能強化を図り、マッチオフシャル全員によるゲームマネジメントを行う。